

1 むらづくりの主体

- (1) 名称 のうじくみあいほうじん
農事組合法人いくみ
- (2) 所在地 しずおかけんしまだしいくみ
静岡県島田市伊久美
- (3) 地区の規模 旧市町村単位の集団等
- (4) 組織の性格 地縁的な集団等
- (5) 代表者の氏名、役職及び住所

氏名 しみず みつぐ
清水 貢

役職 代表理事

住所 しずおかけんしまだしささましも
静岡県島田市笹間下 1 5 6 1

2 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林
1,362人	521人	320戸	3,813ha	154ha	0ha	3,213ha
農家戸数	専業農家	第 種兼業農家	第 種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
189戸	22戸	69戸	67戸	70戸	33戸	55戸
地域指定状況			農業地域類型区分			
<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域(昭和46年) ・森林整備市町村(平成12年) ・特定農山村地域(平成5年) 			市町村		当該地区	
			都市的地域		山間農業地域	

注：専業農家・主業農家等は、販売農家の数値。農家戸数は、総農家の数値。

3 むらづくりの背景・動機

伊久身地域は、島田市の最北端に位置し、通り抜けできない、閉塞的地勢の山間地域である。このような地勢ではあるが、香気高い良質なお茶の生産地で、以前は、お茶の栽培や林業を基幹産業として数千人が居住していた。しかし、昭和30年代後半から過疎化と兼業化が急速に進展し、集落戸数や居住者の減少が続くとともに、地区の伝統行事であった「とうろん」(盆の送り火行事)が廃れるなど、このままでは個々の集落や地区そのものの存続・維持ができなくなるとの強烈な危機感が地域住民の中に芽生えてきた。

昭和57年、地区内12集落合同で「伊久身地区コミュニティ委員会」が設立され、その下部組織として各集落の代表者からなる「ふるさと部会」が設置され、地域活性化に取り組む。昭和63年「伊久身地区村づくり委員会」(～元年)が発足し、年代別グループでの議論、検討を経て、平成元年「自然や伝統等地域資源を活かした、「体験」をキーワードにしたむらづくり」の基本構想を決定。20代、30代のグループはコミュニティ委員会ふるさと部会に合流し、むらづくり活動を継続していった。

一方、基本構想に沿って、各集落ごとにやまめの養殖やしいたけ栽培などのむらづくりに取り組んでいたが、集落個々ではなく点と点を結ぶ線や面の広がり地域全体の活性化につながるの共通認識が芽生え、その核となる組織や拠点づくりが課題となった。

このような中、市が平成7年から8年にかけて実施した中山間地域拠点集落整備構想策定事業を契機として、地域全域から100人以上が集まって、2年にわたりワークショップを開催。ワークショップのメンバーが中心となって、平成9年「伊久身活性化推進協議会」が立ち上げられ、都市住民との交流を目指して拠点施設づくりの住民合意が図られた。同時に、むらづくりの実施主体としての組織整備が進められ、平成10年「農事組合法人いくみ」が誕生した(現構成員74名)。

4 むらづくりの内容及び成果等

(1)農産物加工体験施設「やまゆり」における地場産農産物の活用

平成11年に農産物加工体験施設「やまゆり」が完成。「やまゆり」では、法人の体験加工部が中心となって、地元の食材を使った手作りのこだわり商品の開発を展開しており、市内のスーパー、病院で販売されるなど安定した需要を創出している。また、これらの活動は、地元農家女性によって取り組まれており、家庭にあっては高齢者の介護等をしつつ、個々の経営(お茶)を重視し、「無理をしない」ことで、組織の継続性が維持され、個々の農業経営も維持されている。

【 成果等 】

「やまゆり」売上高：38,852千円(平成12年) 42,756千円(平成14年)

地区内雇用を創出：30名

支払賃金：1,489万円(平成14年)



農産物加工体験施設「やまゆり」



パン・菓子加工室

(2) 地域作物資源等の高付加価値化への取組

高齢者等による少量農産物や、地区に細々と伝わってきた雑穀（きび、ひえ、ごま、そば）やほう葉等の特産物を原料として買い入れ、クッキー、おやき、和菓子、パンなどの各種商品を開発している。また、各種農産加工品や地域内で生産された農産物等は、県内の駅や量販店において対面販売している。



雑穀等を活用した各種まんじゅう

【 成果等 】

当法人による地場農産物等の買取・流通システムにより、農地の生産的利用が図られ、また、高齢者の貴重な収入源、生き甲斐を創出している。

対面販売により、消費者から直接聞いた意見を取り入れ、より良い商品づくり、顔の見える商品づくりに取り組んでおり、ファンと安定需要を確保している。

(3)質の高い体験交流活動「あぐりわくわく探検隊」

地区の組織である「伊久身わくわく倶楽部」(構成員20名、うち法人組合員18名)と連携して、島田市内外の小学生を対象とした体験交流活動「あぐりわくわく探検隊」を実施している。年間を通して、黒米の田植え、釜炒り茶づくり、そば打ち等の食育体験や、山歩き・リースづくり体験などを行っており、例えば「この2年間を通して農業には、生産があり、地域があり、人があり、知恵があり、文化があることに気づいた。」(小学生隊員の感想文)など質の高い体験交流活動を展開している。



お茶摘み



とうろん

【 成果等 】

あぐりわくわく探検隊

- ・活動回数：年5回
- ・参加児童数：毎年30数名

地区の伝統行事である「とうろん」が探検隊のメニューとして復活。

「あぐりわくわく探検隊」の体験活動等により遊休農地を活用して栽培された黒米は、パン、日本酒等に商品化されている。

(4)地域のファンづくりによる都市部との有機的・多角的な交流

みそづくり、そば打ちなどの一般対象の体験プログラム、地区内の連携の下での「あぐりわくわく探検隊」などの体験交流活動に加えて、拠点施設「やまゆり」で加工されたパン、ほう葉もちなどの農産加工品や工芸品などを積極的に地域外で販売する活動などによって、伊久身地区のファンづくりを行っている。

その取組が、都市からの就農希望の若者、移住者の受入れにつながり、また、地域内への都市住民の入り込みの促進が、淡水魚（ヤマメ）養殖、茶農家における域外季節雇用などの生産活動に寄与するなど、都市部との有機的・多角的な交流が展開されている。

【 成果等 】

島田市がコミュニティバスを開通：1本 / 1時間（島田市中心部～伊久身）
・平成15年から運行開始。このことで、さらに交流人口の増大が期待されている。

(5)体験学習フィールド

あぐりわくわく探検隊などに加えて、島田市が実施する移動学習など小学校の農業体験学習を伊久身地区で受け入れており、当法人は、その担い手として重要な役割を果たしている。その結果、域外からの転学児童が現れるなどの成果をあげている。

また、伊久美小学校における「夢講座」という地域の伝統を伝える取組に講師を派遣するなど、未来の地域の担い手育成に積極的に関わっている。

【 成果等 】

域外からの転学児童：2名（平成16年）
法人からの夢講座講師：4名

【むらづくり推進体制】

